

I 目的

教育活動や学校運営、学校生活についてアンケートによる評価を行い、結果を改善に生かす。

II アンケート実施期間 令和4年12月

III アンケート対象者と回答率

(1) 対象者	生徒823名	保護者823名(生徒数)	職員51名(県職のみ)
(2) 回答率	生徒84.7%	保護者65.5%	職員98.0%

IV アンケート方法

- (1) インターネット上で回答
- (2) 各質問項目に対し、「大変よく思う(A評価)」「よく思う(B評価)」「あまり思わない(C評価)」「思わない(D評価)」の4段階で回答する。

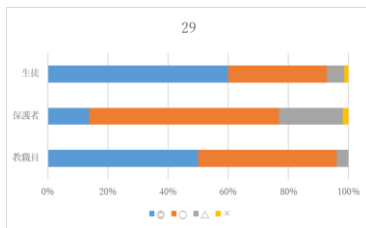
V 結果と考察

生徒・保護者・職員のそれぞれの回答の割合を比較し、傾向や特徴等からの考察を以下に載せる。

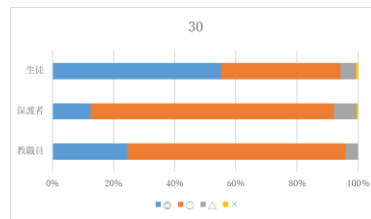
1. 学校生活について

- 挨拶について、生徒の「進んで挨拶できた」+「まあまあできた」(以後、「肯定的評価」)が90%を超えているが、保護者の肯定的評価がそれほど高くないのは、来校時や近所で挨拶されない実態があるのではないかと。また、教職員もその数値程の挨拶の良さとは感じていないのが実情であり、生徒の意識とのギャップがある。なお、職員への質問は「自ら範を示し、生徒が挨拶しやすい環境づくりにつとめているか」であり、職員から挨拶する姿勢は今年度取り組んでいるところである。
- 生徒の活発な歌声は、「意欲的に取り組みました(A評価)」62.6%からも納得できる。職員への質問は「生徒が積極的に取り組めるように指導しているか」であり、A評価が高くないのは、むしろ教師が前面に出て指導する必要がない、生徒主体の活動になっているという望ましい状況と言える。

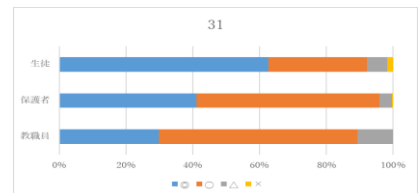
【挨拶】



【清掃】

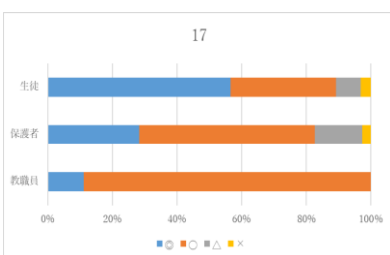


【歌声】

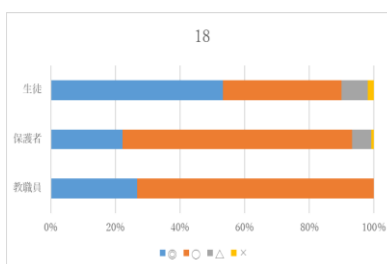


- 「学校は楽しいか？」に対し、9割の生徒が肯定的評価だが、1割の生徒が楽しくないと感じていることを教員は(もちろん生徒も)軽く考えずに教育活動を展開する必要がある。
- 生徒の学校行事や委員会への積極的な取り組みは約9割と高い自己評価であり、多くの生徒にとって責任とやりがい、活躍の場を見出せるようにしていきたい。
- 「思いやりの心を大切にしているか？」への生徒の肯定的評価が97.1%と高く、相手の気持ちや立場になって考えようとする『優しい生徒が多い』ことは本校の長所だと言える。

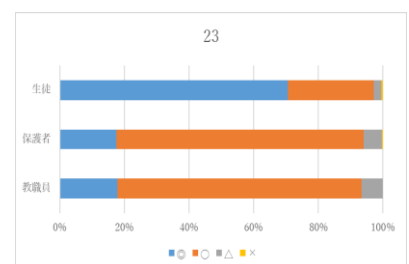
【学校は楽しいか】



【学校行事や委員会活動】



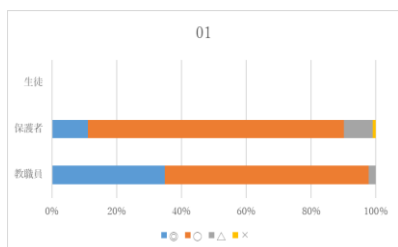
【思いやりの心】



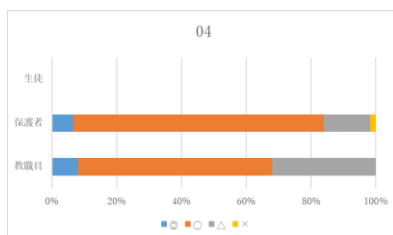
2. 学校運営について

- 学年・学校・学級だよりを通しての教育方針や生徒の様子について、肯定的評価は90%を超えている。
- 家庭との連携については、肯定的評価が保護者で8割に対し、教師は9割を越えている。
- 「先生はわが子のことについて、適切に相談に応じている」の肯定的評価について、やや教師の方が高いが、昨年同様に生徒・保護者も90%を超えている。
- 環境整備への肯定的評価は、保護者は8割超えに対し、教師は6割にとどまっている。教師用タブレットPCが整備されていないことや古く老朽化した校舎・施設に対する思いがあるのではないかと。

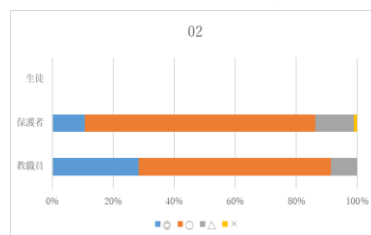
【HPで学校の様子を伝えている】



【環境整備】



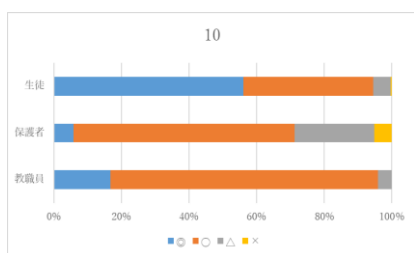
【学校と地域と連携】



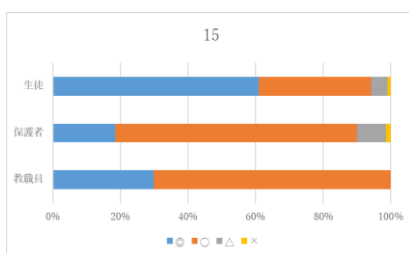
3. 学習指導について

- 「分かりやすい授業」では、生徒と教員の肯定的評価が高かったが、保護者の3割は否定的評価であった。要因として学習参観での授業を見た印象だけでなく、到達度テストや通知票の結果も加味しているのだろうか。教職員は授業改善に努め、実際に学力を向上させることで信頼を得る必要がある。
- 「クラスやグループの仲間と協力して授業に取り組む」生徒が94.2%と高く、教職員の意図や工夫が反映されている。
- 課題などの提出は、8割以上の生徒が期限を守ると答えている。しかし、提出期限ギリギリになったり、苦勞している生徒も多い。
- 「パソコンやタブレットなどを利用した授業は分かりやすい」と回答している生徒は8割を越えているが、教職員の積極的ICT活用は6割にとどまり、研修したり教材研究をしたりする時間の確保が課題である。

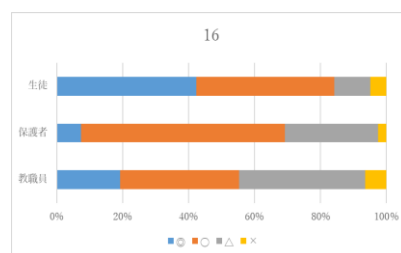
【分かりやすい授業をする工夫】



【仲間との協働】



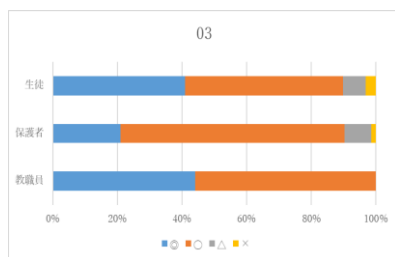
【ICT機器の利用】



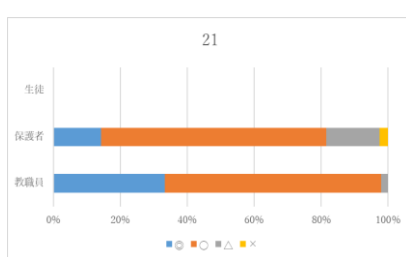
4. 生徒指導について

- 「悩み事や相談事に真剣に対応してくれる先生がいる」は9割に迫る。今後も生徒と向き合える時間と信頼関係を大切にしていこう。
- 「好ましい人間関係」について、92.5%の生徒が作ることができていると答えている。しかし、7.8%の生徒の声に耳を傾ける必要がある。
- 「いじめのない学校づくり」への取組について、生徒の肯定的回答は昨年度よりも20%上がっている。いじめのない学校の実現に向けて、市教委や外部機関と連携しながら、さらに学校全体で未然防止、早期発見・対応に努める。

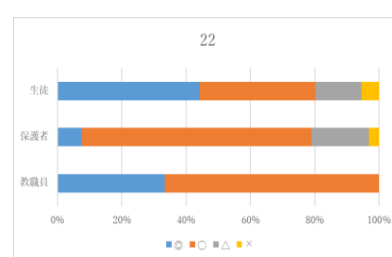
【悩みや相談を聞く】



【悩み事に対応してくれる】



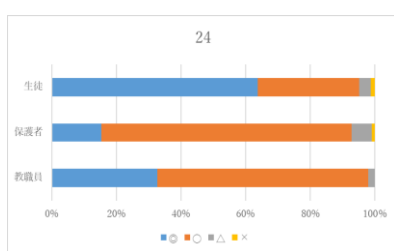
【いじめについて】



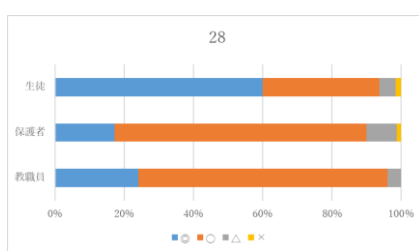
5. 健康・安全面について

- 「安全に気がつけた生活」については、生徒・保護者ともに肯定的評価が高い。
- 感染症対策については、9割を越える生徒が肯定的である。保護者にも協力を得ている。本校では、国や市のガイドラインに沿い、校内の状況を見ながら今までで感染予防に努めてきた。今後、状況の変化への対応が求められるが、部活動や行事等が中止にならないよう注意していきたい。
- 「登下校の交通マナーや社会のルールを守ること」については、生徒は97%、保護者の8割以上が肯定的である。しかし、通学路の歩き方や声の大きさ、自転車の乗り方について、地域から何度も指摘を受けている。また、校内においても狭い廊下を横3列で歩き、教員が避けることもあったり、職員室前を猛スピードで走ったりする生徒もいる。「教室は社会とつながっている」という意識を持ち、まずは校内でルールやマナーを意識することが重要である。また、昨年度からから保護者と職員と一緒にパトロールや挨拶運動を行っている。これからも継続して安全を見守りながらマナーやルールが身につくようにしていきたい。

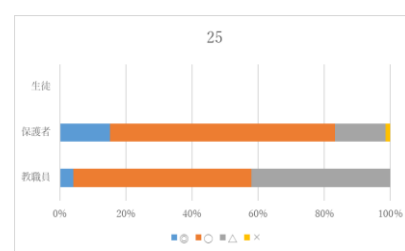
【安全について】



【感染症対策について】



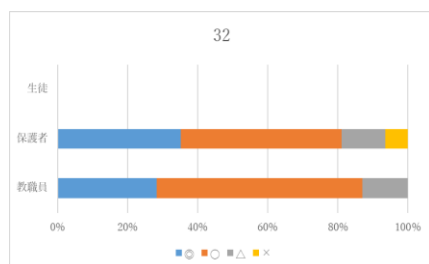
【登下校のマナーについて】



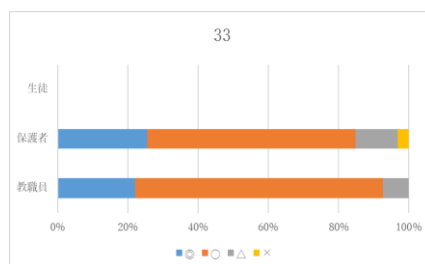
6. 部活動・部活動の運営について

- 「部活動を楽しみにしている」という肯定的評価が生徒・職員ともに昨年より大きく伸びている。
- 「部活動を適切に運営している」という肯定的評価は8割を越えている。

【部活動を楽しみにしている】



【部活動を適切に運営している】

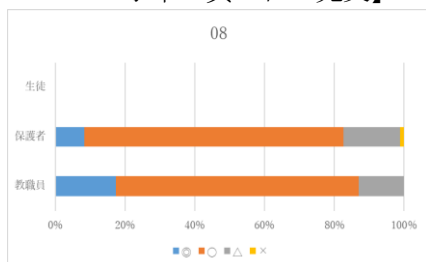


7. 小中一貫教育・特別支援教育について**

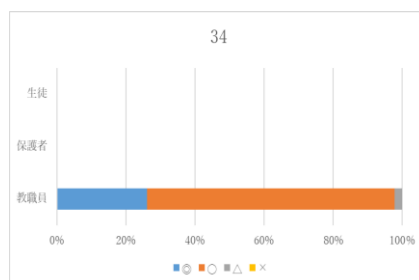
- 小中一貫教育のグランドデザインを理解している職員は、昨年に比べ20%以上増えた。
- 適応教室の充実や職員間での連携については昨年より高く、推進が図れている。
- 支援を必要とする生徒について特別な配慮をして授業をしている教員は90%以上である。

【新入生保護者説明会や

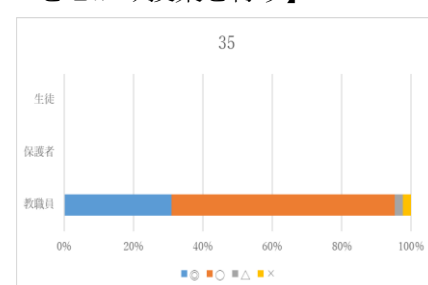
小中一貫の日の充実】



【適応教室の充実や職員間での連携】



【支援が必要な生徒に特別な配慮を心がけ授業を行う】



VI まとめと今後の方向性

今年度（R4）もコロナ禍での学校運営で、以前とは、また昨年とも異なる対応が求められた。その中で、タブレットを活用した授業や授業を配信することで学習保障を図った。また、古都体験学習（修学旅行）・自然体験学習（林間学校）も3年ぶりに実施することができた。しかし、学校の働き方改革を推進することが国や県からも強く求められ、行事の精選や内容や方法の見直しなども行う必要がある。コロナ前の学校の状態に戻すことはなく、教育の質が問われる時代となった。新学習指導要領の理念を受け、これからの社会を生きる生徒にとって必要な資質・能力の育成のために何が必要かを考え、検討を重ねて教育活動を実践していくことが重要であることを改めて認識した。

下記に、項目別にまとめと今後の方向性を記す。

① 学習指導

- 今年は「対話的」な授業への制限が緩和され、講義式以外にもグループ活動やペア学習を行うことができた。生徒の授業に対する肯定的意見は多く、友達と協力して授業ができたという生徒が9割を越えた。タブレットPCや学習活動ソフト（SkyMenu）、グループウェア（Teams）を活用し、ICTを活用した交流も促進された。これらを介して、プリントを配付し提出させる職員もいた。
- 「あなたの学習態度（聞く、聴く、話す、読む、発表する、参加する）は中学生らしく適切でしたか」について、肯定的な生徒は9割に迫る（89.2%）。保護者には、学習参観だけでなく学校公開日を設けて授業の様子や生徒の様子を見られるようにして、学校教育に対する理解をより深めるようにしたい。
- 今年度も毎日タブレットを持ち帰ることで、タブレットを活用した宿題や明日の連絡事項等を確認することができた。しかし、自分でタブレット端末をどのように学習を進めていくのか、「個別最適な学習」をどのように実現するのか、引き続きタブレット端末の有効な使い方は課題である。
- 「宿題・課題の提出」についての評価について、全体としては生徒と保護者、教職員間の差が大きかった。提出が大きなプレッシャーになることもあり、校内委員会でも課題について協議を行っている。今後は、学力向上の目的に沿って、適正な内容や量について教科部会で決めること、各教科間で量や締切日を調整することが課題である。
- 「パソコンやタブレットを利用した授業は分かりやすい」が向上し、ICT機器を扱うことが楽しい段階から、ツールとしての利用ができてきている段階になった。タブレット端末を利用した授業に取り組んできた成果ではあるが、来年度もさらに研修を進め「主体的・対話的な分かりやすい授業」「ユニバーサルデザインを活用した授業展開」の実践に向けて努力していきたい。

② 生徒指導

- 自転車の乗り方、登下校のマナーなどについて、生徒の肯定的な評価は高い。しかし、地域住民からマナーに関する連絡を受けることも少なくない。特に、全校生徒が一斉に下校する時は自転車だけでなく、歩行者のマナーに関して苦言もあった。今年度も、PTA保護者による放課後の見守りや職員による安全指導を強化してきた。来年度も各家庭や地域、生徒会活動（安全委員会）と連携して、安全指導及び生徒のマナー向上に努めていきたい。
- 挨拶の活発化について、体育祭練習期間の「さわやか杯」を今年度も実施し、一定の成果を得た。例年、それが持続しないという実態があり、盛り上がった挨拶の灯を消さないよう、生徒からの挨拶を待つのではなく、職員から挨拶を投げかけていくことで挨拶習慣の定着を図りたい。また、生活委員会が中心となった挨拶活動の啓発が望まれる。
- いじめのない学校づくりについては、保護者・生徒ともに昨年度よりも肯定的な評価が増えた。しかし、約5分の1の保護者・生徒がまだ不十分と考えている。SNSの利用によるトラブルは減少しているが、無くなったわけではない。「いじめは許さない」という姿勢を教師・生徒と共有し取組を継続したい。また、道徳の授業や生徒会活動を通して、継続的な指導・啓発を行いたい。
- 世間ではSNS上でのトラブルで事件が起きている。学校でも使い方の継続的指導が必要だと感じる。今年は、千葉県庁環境生活部県民生活課の職員を講師に招いて子供達に授業を、地域・保護者にはリモートで参観しての教育ミニ集会を開き、生徒の啓発をすることができた。

③ 健康・安全面について

「食育の知識・関心を高めている」ことについての評価は低かった。献立表の裏面を活用して、食育に関する記事を掲載したり、掲示物を活用したりして意識を高めていきたい。家庭科の授業も重要と考える。

④ 部活動について

昨年度よりも「部活動を楽しみにしている」の評価が高くなった。今年度は感染症による部活動停止措置の期間がなく、年間を通して練習や試合を行うことができたことで、部活動ができる喜びを感じている生徒が多いことの表れと考える。今後も制約のある活動が続くが、状況に応じて方法を考えて活動を確保していきたい。また、部活動の地域移行についても本校の学校運営協議会（CS）を活用し、教育委員会と連携しながら、本校に合った方法を模索していきたい。これを機に、部活動の意義を見直し、練習時間が短くなくても効率的な練習をしたり、生徒がより自治的に活動したり、学び多い部活動になるように考えていきたい。

⑤ その他

- 今年度は、行事や生徒の様子をHPに掲載し、情報提供や発信を続けてきた。学校の様子を伝える手段として、来年度も取り組んでいきたい。
- 昨年度に比べ、授業の保護者参観数は多かった。体育祭の参観は3年生の保護者だけだったが、合唱コンクールは全学年に開くことができ、保護者の喜びの声とたくさんの励ましの言葉をいただいた。今後は県や市の方針を参考に適切に判断し、できる限り実施できる方向で模索していきたい。
- ICTを活用し、全体で集まらずにリモートで始業式・終業式を行うなど方法を模索してきた。3年ぶりに2学期の終業式から全校生徒が一堂に会して集会を行い、大きな喜びと共に、互いに顔が見える中で行うことの価値の大きさを再認識することができた。